

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
109	政治学演習α(佐藤正志)	通年	3年以上：4単位	佐藤 正志 政政・経演・国演

副題

公共性の思想史—近代啓蒙の批判的継承

講義概要

本演習では西洋政治思想史上の古典的著作を、古典として現代になお生きつづけていることの意味を考えながら、またそれぞれのテキストの書かれた文脈をふまえながら、じっくりと読むことをひとつの目標としている。本年度も引き続き、〈いま、あらためて「啓蒙とは何か」を考える〉という視点から、ルソーや百科全書派、またカントの古典に立ち戻る。同時に、啓蒙思想の歴史的コンテクストとして、書物や新聞の読者としての公衆の登場や世論の成立に着目しながら、市民社会と公共圏の形成について考察する。ハーバーマスやフーコーらの著作を読んで、私たちが現代の政治と公共性について考えるときに啓蒙思想はどのような意味をもっているのかを検討する。このようにして啓蒙の政治的ヴィジョンの多様性と現代性の再検討を目指す。

ゼミは毎回、共通テキストの分担報告を中心とする。本年度の主題に即して、古典を輪読すると同時に、それらのコンテクストに関する報告を分担して行う。夏期合宿では主題に関わる現代思想を取り上げる。こうした共通の取り組みと同時に、ゼミ参加者は、広く政治思想にかかわる領域から、それぞれ自分の問題関心にしたがってテーマを選び、研究をすすめることになる。春期と秋期にそれぞれ、その報告と討論の機会をもうける。なお専門演習βでは、こうした演習での成果を基礎に、ゼミ論文の作成にむけた指導と、中間報告が中心となる。各自の問題関心にしたがって研究を深めると同時に、できる限り、他のメンバーの取り組んでいる問題への関心を共有し、知識の幅を広げてゆけるようなゼミの持ち方を追求したいと思う。

**シラバス
(授業計画)**

第1回：ガイダンス
第2回：共通課題についての問題提起とディスカッション
第3回～第11回：共通課題についての分担報告とディスカッション
第12回～第14回：個別課題予備レポート報告
第15回：中間のまとめ
第16回：共通課題についての問題提起とディスカッション
第17回：共通課題についての分担報告とディスカッション
第18回～第23回：個別課題レポート中間報告
第24回～第29回：共通課題についての分担報告とディスカッション
第30回：総括、レポート提出

教科書

本演習では、初めに共通課題に関してディスカッションを行い、それを踏まえて主として古典的作品を共通テキストとして決定する。以下は本課題に関する古典の例。
ルソー『学問・芸術論』『人間不平等起源論』『社会契約論』、カント『啓蒙とは何か』など。

参考文献

ロイ・ポーター『啓蒙主義』（岩波書店、2004年）。
トドロフ『啓蒙の精神』（法政大学出版局、2008年）。
ホーフ『啓蒙のヨーロッパ』（平凡社、1998年）。
富永茂樹『理性の使用-ひとはいかにして市民となるのか』（みすず書房、2005年）。
ピーター・ゲイ『自由の科学-ヨーロッパ啓蒙思想の社会』（ミネルヴァ書房、1982年）。
ヴェントゥーリ『啓蒙のユートピアと改革』（みすず書房、1981年）。
ダントン『禁じられたベストセラー-革命前のフランス人は何を読んでいたか』（新曜社、2005年）。
ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』（岩波書店、1990年）。
ハーバーマス『公共性の構造転換』第2版（未来社、1994年）。
フーコー「啓蒙とは何か」（『フーコー・コレクション<6>生政治・統治』（ちくま学芸文庫、2006年）。
佐藤正志編『啓蒙と政治』（早稲田大学出版部、2009年）。
その他、ゼミのなかで紹介する。

評価方法

ゼミは毎回の参加と、そこでの分担課題と各自の研究テーマについての報告が基本で、それに加えて、最終的にレポート（βはゼミ論文）で評価することになる。

関連URL

<http://www.f.waseda.jp/ssato/>

備考